

## 研修セミナー「福音を生きるとは—優生思想に対抗して—」 英隆一郎神父様 (2017・11・18)

### A グループ発表

#### ① 優生思想について

- \* AJU の仕事をしていた時、相馬司教様から「ありがとうという言葉が返ってこないけれど、その人の一生を支え続けていくことが福音思想だよ」と言われた。”サマリア人”になれることが福音思想かと思う。
- \* 初めて優生思想の事を聞いた。自分の方が辛い思いを共有してもらった。
- \* おなかの子に障害があったら親族が何というか心配した。
- \* 障害の子どもがいるから洗礼が受けられたね、と言われても自分としては 洗礼は受けなくても子供に障害がない方がいいと思っている。
- \* ヘイトスピーチで感じる。
- \* 娘が精神を病んでいる。洗礼を受けたことを感謝している。娘の病を受け止めることが出来るようになったのは受洗したおかげ。
- \* 障害者がいない教会が異常。来れるような教会にするべき。

#### ②のテーマ

- \* 母親が「おまえは障害者になって良かった」と言ったが、そうかもしれない。今、言えることは今のままでいいと思う。こういう身体で、ひとりで生きていける。そういう制度を作ってきた。今ではかえって障害者になって良かったと思っている。自分も人里離れたところで3年間いた。
- \* 作業所の人たちと関わり、親しみを込めて名前でもらった。ある人からすごい手紙が送られてくるが、それに対応できない自分につらく思っている。毎日祈っている。
- \* 宮城まり子さんのところに子どもたちの絵がすごくいい。
- \* 「健常者ですか？」と問われると、自分も障害者かなと思うことがある。
- \* 障害を持った息子さんがいるお母さんの明るいこと。尊敬してしまう。見習うことが多い。
- \* 手話を習い始めた人が、手話を始めたら障害の方の顔がパッと明るくなった。それで自分も手話をやり始めた。他の人と変わらないなと感じた。認識を改めた。
- \* 自主的に動いて元気にやってみえることを知ることができて良かった。
- \* 聖堂で聴覚障害の方たちの近くに座り、手話を見習っている。会話ができるようになったらと思う。

### B グループ発表

#### ① のテーマ

- \* 障害者団体の意識が管理社会にいかにも順応しようとする。
- \* 身内の話、結婚したお相手が知的障害のある兄弟。前もって結婚式に出ないでねと言われて何故か？と思った意識。
- \* 出生前判断で1割～2割は生まない、社会全体が動いている。
- \* 優生思想はあまり意識していないが、4歳で入院し脳性麻痺の疑いがあったその時期の事を思い出し、身近に感じる。
- \* あまり深く考えていなかったが今日のお話を聞いて、スポーツの世界でも何でも一番、賞をもらったなど無意識の中にあることきづき、比べる考え方を見直していく思考が必要と感じた。
- \* 職場の中でもそうだ。息子の就職時に知的障害を持った子供を産んだ母としてのこだわり、ほかの子どもさんとの比較がジレンマ。どうすれば99匹にあわさしていけるか。

## ②のテーマ

- \* 親の介護の経験から半年やって大変だという事が分かった。勉強になることが多かった、それが新しい方々との接し方と重なり理解、つながりができた。
- \* ダウン症の子どもさんの合唱がすごく良かった、感動があふれていた。
- \* お隣の身障の方と接する中で、自然とお付き合いでき、教えられた。意識がない母を見るようになってみんな障害者になっていく今の社会に不安を持つことが逆差別を感じることもある。
- \* 優生思想が当たり前だと思っていたが障害者になって優れた人間だけならそれはロボットだ。ロボットでは楽しくない。我々がいることで痛みを共感、愛しあえる。
- \* 人の痛みを分かち合えることが出来た。
- \* 障害児とのお付き合いで特殊な才能を見いだした。身近にいたのでいろいろな長所、良いところを知った。

## C グループ発表

- \* ②障害のある友達と友達として出会えた。①何かできないと価値がないと恐れているという感じである。
- \* ①ヘルパー職、身障者と街に出ると逆に怖がられる。②人生や自分に肯定的、自分の性格が変わった。
- \* ①精神障害。結婚するな、出産するな！絶対 NO!!と言った。②人として大切なものを失わずにいる。
- \* ①②聴覚障害。コミュニケーションがなかなか取れない、生活の中でできないことが多い。が、最近是人と出会う機会が増え友達も増えた。
- \* ①②聴覚障害、出産前、女の子がいいな~と思っていたら女の子が生まれ、結婚してもメールをくれることがうれしい。
- \* ①②聴覚障害の認識はなく、先生の口元を見て首を回していた。落ち着きがないと注意された。大きくなって聴覚障害者に出会い、同じ障害と言われ始めて障害者と気づかされた。手帳を持っていても障害者とはっきり言えない部分がある。
- \* ①②聞こえる人とのコミュニケーションがとれない。食い違いが多く誤解されることが心配で黙ってしまう。
- \* ①家族の中で聴覚障害の兄がいて、また聞こえない自分が生まれ、親はあちこちお寺や祈祷師に多額のお布施をかけ走り回った。カトリック教会ではただ「神のみ摂理」といわれ唖然とした。
- \* ①生まれつき右耳が聞こえない。職場での人間関係で自分にも差別意識があるとわかった。②教会で、サークル活動で友達ができ繋がりができた。
- \* ①生物学的な保存と神様の意志。妻の不妊治療、出生前検査、出産を前にして自分の中にも優生思想があるかと考えてしまう。
- ②弱者だからこそ他者の事を愛することが出来るようになった。弱者だからこそ天の恵みを受け、より感じられる。他の人もそうだったら世の中は済みやすくなると思う。

## 個人感想

- \* 神父様のお話、フィリピンの活動で「人間は何のために生きているのか」の答え、人間は愛し合うために生きていると言われた事が、すっきりと心の中に入ってきました。また、古事記にあった、最初に生まれた子供に障害があり、川に流したという話は、はじめて聞いたことで、ショックでした。と聞きました。心に残りました。つい、感謝の言葉を喜んでしまう者ですが、そうではないと思われました。とても勉強になりました。ありがとうございました。
- \* 英神父様の語る福音。マタイ 18 章からの話、だれが一番偉いのか。 神父様の経験、フィリピン・ラルシュ共同体、たまごっち、釜ヶ崎の話、99匹の羊の話 1 匹の羊を見て、99 匹を見る。私たちは、お互いに愛しあうために生まれた。愛するよりも愛される立場になる、など話が印象に残りました。
- \* いろいろな事がわかって本当に良かったです。英神父様の「人間は愛しあうために生きている」という言葉が一番心に残りました。人間は感情があって、体温のぬくもりがあるのです。そして、99 匹の羊の話。迷う 1 匹の羊に意味があったのですネ！。ありがとうございました。また英神父様にお話ししていただける機会があれば、またお聞きしたいです。
- \* 古事記のお話ははじめてで、原罪と同じで、日本人にははじめから優生思想があるのだと思いました。名古屋教区にはイエズス会が残念ながら無いので、フランシスコ・ザビエルからのイエズス会の神父様のお話を初めて聞くことが出来て新鮮でとても良かったです。どうもありがとうございました。
- \* 相模原市障害者殺傷事件から 1 年になるが、教会ではほとんど関心がない。他人事なのか。教会の神父に、教会で障害者殺傷事件について考えるわかちあいを設けてほしいと提案した。教会の神父は優生思想について勉強している。いつになるかはわからないが、優生思想について考えるわかちあいを設けたいと言っていた。
- \* 初めて参加させて頂いて、とても良かったです。優生思想について、何か他人事、医学的分野だと漠然と思っていましたが、身近に、また自分自身の中にもずいぶん毒されていることに気づかされました。それが無意識のうちにも、偏見、差別につながっていることにも大いに反省させられました。
- \* 1 匹を探しに行く人がいる事を知った 99 匹は幸せ。この世は探しに来てくれる人は少なく、自己責任、自助努力、不適者排除の世界。探しに行く人を知った 99 匹は、自分も倣って探しに行く者になりたいと思っただでしょうか。 探しに行く者になりたいと思います。
- \* 「優生思想」むずかしい言葉ですが、英神父様のお話の流れを聞くと少しわかってきました。とてもいい講演会でした。ありがとうございました。(聴障)
- \* 優生思想、障害等を見つめ直す良い機会となり、大変感謝しております。キリスト者として、”人間は互いに愛しあう為に生きている” ”互いに愛しあいなさい”という言葉に胸に刻み、行動を伴う生き方を心がけていきたいと思えます。主の平和が皆様にもありますように！ Fides, Spes, Caritas 関係者の皆様方、本日はどうもありがとうございました。
- \* 津久井やまゆり園の事件を通して、優生思想と福音についてあらためて考える良い機会になりました。子どものように生きること、サマリア人のように生きるとは、簡単なようでむずかしい。ふとした時に自分自身の弱さが顔を出します。自分も弱い者であることを認めながら、日々生きて行けたらと思います。

- \* 耳が聞こえないので、他人とは話ができないです。話を聞いても分からない。黙って続けています。
- \* 自分も障害者としてはっきり自覚するようになったが、まだ障害者ではないという意識もある。何が障害であるかという事を問題にしていきたい。
- \* 私達は耳が不自由でも助け合ってくださいる便利な手話通訳者たちもいらっやあってありがとうございます。今日の講演の中に大変便利に OHP、手話通訳と両方読ませてもらってありがとうございます。それでは、障害者たちと集めて、週 1 回ぐらいの神のみ教えについて、お話をしようおすすめしたらよいと思いますし、最後に困難、悩みなど話し合えば、だんだんと改良するようにおすすめはいかがでしょう？と私は思います。何卒お力をお借りして、よい主の平和でありますように。
- \* 福音と日常生活との関連性を意識させられ、ハッとさせられた。キリスト教でよかった。(皆でいっしょにいる、生きることはすばらしい。)みんなといっしょに個性・心の中をわかちあえた。
- \* 英神父様がフィリピン障害者施設や釜ヶ崎での体験をベースにやまゆり学園の事件に対し、行政、家族、支援団体、職員のそれぞれの価値観が、過去の体験(厳しい取扱い)を通して異なっているので、一同に会って今後の学園の在り方を討議する過程で色々と大切なものが見えてくるのではないかと提案されたと思う。日本人の優生思想は「古事記」からスタートしていると聞いて、根の深さを強く感じました。また、障害をどう受け止めるかが大切である。今まで悪かったことを少なくしてよかったことを増やしていくこと、福音的思想で考えていくことが大切。分科会の時間が少なく且、すぐに発表になったので、良くまとめることが出来なかった。
- \* 私は学校は進学校で英語・数学が得意でした。それで、県外の外語大学を受験しました。ところが、自分の意志の弱さや自主性のなさのために、解答終了後の余った時間に答案をメチャクチャにしまいました。そして、親の言うとおりに市内の工業大学へトップ入学しました。もともと興味のない分野で、友人と giye and teke で卒業しました。つまり英語は自分が、工業高校を卒業の友人は工業系の科目を教え合い(協力し合い)ました。卒業後も専門科目が身についておらず、友人の力で卒業できたようなものです。1 回目の仕事につまずいてから、転職を繰り返しました。そのような私が現在の妻と出会えたのも、現在の職場のようにノルマがなく給料が低いとはいえ、65 歳を超えた現在でも延長して働かせてもらえるのは、イエス様の計画であったように思います。大学時代の友人も転職を繰り返していた頃、「反社会的な思想や行動をしないかと心配していた」と言ったのを思い出しました。最後に、業務に関しても、苦しい時に、いつもイエス様が助けてくれて事なきを得ています。このように、あらゆる場面でイエス様が、カトリック信者であるのが名ばかりの私をも守っていてくれる事に感謝しています。
- \* 津久井やまゆり園の事件の事、違う角度から考えることが出来ました。カトリック信者として考え、福音的価値観に基づいて、日々の生活を送りたいと思いました。ありがとうございました。
- \* 差別:かくす 加害者:精神状態、自己愛性パーソナリティ障害 優生思想 ⇒ 優生学  
人間の進化(すぐれた人になっていく) 優生思想にどう乗り換えるか わたしたちの中にもある優生思想に気づく。 1997 年まで優生保護法 ⇒ 母体保護法  
助けたり助けられたりする関係の中で愛しあうことを知る。 感想:気づきを与えられる講演会であった。  
①自分の中に根付いている優生思想 ②古事記の中の優生思想 ③福音的配慮(99 匹のうちの 1 匹にあわす) 今日を機会に

\* 今日の講演に参加して、自分自身の心の奥底に優生思想があったのではないかと自問自答しました。植松被告の検証により、今回の事件の詳しい背景がよくわかり、とうりいっぺんの恐ろしい事件ではなく、福音的配慮により、考え方・関わり方が変わってくると思いました。

\* 主の平安 神父のお話をありがとうございました。「優生思想」について考えたこともなかったのです。優生はそれで素晴らしいこと。それに反して私などは劣生…と思われる部分が多くて…人は誰でも+、-、両面あり、このバランスが良い状態の時、ま、問題なく生きられるのかもしれないと考えます。今日この時間にここに居られたこと幸せでした。ありがとうございました。ひとつだけ、夢のこと。最近、みた夢。右手の中にすずめがいて、スルツと抜け出し、つかみ直し、またスルツ、つかみ、スルツ、つかみ、スルツ、つかみの繰り返し、手のひらの感覚は何日も過ぎた今でもあり。ここで、神様のもと、一羽のすずめさえ…のことば。一人の小さい人も決して忘れられていないと。

\* 目からうろこのセミナーでした。英神父様の講演の中で、「人間は何のために生きているのか」障害で苦しんでいっる人たちと多くかかわってきましたが、いつも「なぜ」という思いが強くありました。ジョルダン君とたまごっちとの比較で、ジョルダン君(人間)はたましいがあること。「愛しあうことが出来る」確認できた気がします。「互いに愛しあいなさい」キリスト者として生き方をあらためて考えます。○最も強く感じたことは「1匹の羊」ではなく「99匹の羊」が1匹の羊のために助けること—福音—ということを発想の変換を考え、福音を生きていかなければと祈りの気持ちになりました。◎障害者のことを理解していただけるよう、知らしていくことが必要であると強く思います。出来ることをしていきます。

\* 自分の教会活動の生き方の反省(心の有り様)と、教会の中で精神の病気の人が教会の為に奉仕できないことを、イライラするようになって存在価値まで排除してしまう恐ろしい考えが起きていること——優生思想がある。 今日のお話を聞いて力障連とのつながりが私にとっても夫にとっても必要と思いました。自分がより良い人間になるためです。○精神の病気のひと家族のための会を作って2年、やっかいに思うこともあり、私の心が弱い人に開かれていないことの反省を感じています。反省ばかりです。健康はよいと思いますが、健常者の方からも心の癒しが必要なのでは?と思うときもあります。健常者も障害者も一人一人福音の理想を求めて……